

F-5 看護婦家族の夫婦関係の研究—職業と家庭の両立と役割葛藤の問題—
お茶の水女大家政 高橋久美子

〈目的〉 働く妻＝母にとって重大な課題である職業と家庭の両立の達成の問題を、家専・育児遂行における夫婦の役割分担の様態(夫の参予に対する妻の期待と現実のズレ)の面から分析する。分析の対象として妻が看護婦である共働き家族をとりあげ、両立問題を考えるうえでのテスト事例とした。また、妻無職家族と比較することによって、看護婦家族の特性を把握することにもあわせて試みた。

〈方法〉 調査は、国立療養所千葉東病院および東京女子医科大学付属病院に勤務する有配偶看護婦83人と埼玉県W市およびK市に居住する無職の妻80人について、質問紙を配布留置(自記式)して行なった。調査時期および有効票数は、看護婦が昭和49年7・8月、71人、無職の妻が50年3月、68人である。

〈結果〉 妻無職家族に比べて、看護婦家族は①夫婦のみの世帯が99%②妻の結婚年令・第1子出産年令が高い③妻の収入がもたらす家計への寄与が大であるため世帯収入は大になる④家専・育児遂行の面では夫の参予・妻の期待ともに大きく、妻無職家族とは異質な役割分化の型をなす等の諸特徴を示した。さらに、看護婦家族について両立の達成の程度別夫婦の役割分担の分析では、両立がうまくいっている場合には①夫の家専への参予が大きい②妻の期待はすべの傾向が少なく、従って夫婦間の役割葛藤も少ないなど、家専・育児への夫の参予の全体的な増加が両立達成のための条件として重要であることが確認された。